

## 【臨床・研究】

## 産婦人科，女性専門外来，総合診療科における選択的セロトニン再吸収阻害薬の使用状況についての比較検討

くり おか ひろ こ よし の なお き は せ が わ あ き ひろ  
栗 岡 裕 子<sup>1)</sup> 吉 野 直 樹<sup>1)</sup> 長谷川 明 広<sup>1)</sup>  
いわ なり おさむ なか むら つかさ こ ぼやし たか ふみ  
岩 成 治<sup>1)</sup> 中 村 嗣<sup>2)</sup> 小 林 孝 文<sup>3)</sup>

キーワード：SSRI, SNRI, プライマリケア

### 要 旨

更年期うつ病を含めた女性の精神障害を扱う可能性のある産婦人科および女性外来，総合診療科における女性患者について1年間のSSRI（パロキセチン，フルボキサミン），SNRI（ミルナシプラン）の使用状況について比較検討した。コントロールとして精神科でSSRI，SNRIを処方された患者数についても検討した。精神科外来を受診した女性患者1,662人のうち461人（27.7%）がSSRI，SNRIを処方されていた。産婦人科，女性外来，総合診療科の該当科のみで薬を処方されていたのはそれぞれ7人，15人，14人，計36人で精神科患者の7.8%のみであった。精神科ではフルボキサミンの内服患者が多いのに対し該当科のみで処方された薬はパロキセチンが多かった。内服患者の頻度は女性外来が最も高く，次いで総合診療科，産婦人科の順であった。産婦人科ではSSRIとSNRIが処方される頻度も実数も低く今後の検討課題となった。

### 緒 言

うつ病の新しい治療薬として，選択的セロトニン再吸収阻害薬（Selective Serotonin Reuptake Inhibitor: SSRI）の出現は従来の三環系抗うつ薬でみられるムスカリン性アセチルコリン受容体

の遮断による口渇，便秘，排尿困難， $\alpha_1$ 受容体遮断による起立性低血圧やめまい，また心臓毒性などの副作用が少なく，かつ従来の抗うつ薬と同等の抗うつ効果が得られることから精神科以外の診療科でもうつ病の加療を可能にしてきた。また保健適応病名も現在ではフルボキサミンがうつ病・うつ状態，強迫性障害，社会不安障害，パロキセチンがうつ病・うつ状態，パニック障害，強迫性障害と拡大しておりストレスの多い現在では精神科以外の診療科においても必要不可欠な薬剤

Hiroko KURIOKA et al.

1) 島根県立中央病院産婦人科 2) 同 総合診療科

3) 同 精神科

連絡先：〒693-8555 出雲市姫原4-1-1